

秋田県仙北市と相互応援協定 災害時の協力を互いに約束

町では、1月20日に秋田県仙北市（門脇光浩^{みつひろ}市長）と災害時における相互応援協定を締結しました。この協定は、災害が発生したとき、被災した自治体の応急対策や災害復旧対策を円滑に行うため、相互の応援体制について定めたものです。調印式は、秋田県仙北市の仙北市役所田沢湖庁舎で行われ、沼崎喜一町長と門脇市長がそれぞれ協定書に調印し、災害時での協力体制を築き上げていくことを約束し合いました。沼崎町長は「今回の災害を通じて培われた絆はさらに太いものになりました。将来に向けて大変意義のあることです」と述べました。



船越地区自治連合会で世代間交流 掛け声合わせ元気に餅つき

1月7日、船越地区自治連合会（黒沢一成^{かずなり}会長）主催の世代間交流会が船越防災センターで開かれました。この催しは、郷土の風習や昔遊びを伝えながら世代を超えた地域の絆を深めようと毎年行われているもので、ことしは地区の住民125名が参加。会場の外では元気な掛け声とともに昔ながらのきねと臼を使って餅つきが行われました。子供たちは触れたことのないきねの使い方に苦戦しながらも、おじいちゃんやおばあちゃんから手ほどきを受け、力いっぱいついていました。また、室内ではみずき団子作りや子供たちによる伝承芸能の披露などが行われ、大人も子供も世代を超えて楽しいひとときを過ごしていました。

豊間根ミニバスが県大会で活躍 初の3位入賞で東北大会へ

1月7日から9日まで花巻市で行われた「第35回県ミニバスケットボール交歓大会」で、豊間根ミニバスが堂々の第3位に輝きました。大会には県内各地区の予選を勝ち抜いた32チームが出場。初戦で1点差を争う激戦を制した豊間根ミニバスは、続く2回戦、3回戦でもスピードを生かしたプレーで内陸の強豪チームに快勝。準決勝では惜しくも敗れたものの、本町女子チームとしては同大会初のベスト4入りを果たし、東北大会への出場権を手に入れました。主将の佐々木千聖^{ちさと}さん（豊間根小6年）は「県、町の代表として、上位入賞を目指し、頑張ります」と、強く話していました。なお、東北大会は3月10日から秋田市で行われます。





今月の題字

柴田 一也くん
(大浦小 5年)

町のわだい

新春書初め大会を開催 筆運び、一文字ずつ丁寧に

1月11日、町教育委員会と町芸術文化協会（佐藤仁志会長）が主催する新春書初め大会が行われました。会場の町中央公民館には町内の小学生10人が参加し、一字一字丁寧に筆を運びました。参加した児童たちは大筆を使い、各学年ごとに決められた課題のほか、自分の名前や将来の夢など大作に挑戦。山田書道会（後藤清郎会長）会員の指導を受けながら、満足いく作品に仕上がるまで何度も筆を走らせていました。作品は1月16日から18日まで、同公民館で展示されました。



防犯隊と交通指導隊が初点検 町の安全守る決意、新たに

1月5日、町防犯隊（篠澤政夫隊長・隊員24名）と町交通指導隊（佐々木正彦隊長・隊員5名）の合同初点検が町中央コミュニティセンターで行われました。式では、沼崎喜一町長のほか昆暉雄町議会議員、石川康宮古警察署山田交番所長らが両隊員の服装を点検し、沼崎町長が「被災した隊員もいる中、日ごろから活動いただき感謝します。町民が安心できる町づくりに励んでほしい」と訓示。篠澤隊長と佐々木隊長は「町の安全を守ることは復興に欠かせない。犯罪や交通事故のない町を目指す」と強い決意を述べました。

ユニホック大会を開催 大きな歓声、白熱する試合

第32回山田町B&G海洋センター少年少女ユニホック大会が1月22日、岩手県立陸中海岸青少年の家で行われました。大会には町内から男女24チームが参加。子供たちはスティックを手に、優勝を目指して白熱した試合を繰り広げました。試合では、連携の取れたパス回しで相手陣営に一気に攻撃をしかけたり、ファインプレーでゴールを死守するなど、これまで練習してきた成果を十分に発揮。子供たちの見事なプレーの数々に、会場には観客の大きな歓声が響いていました。試合の結果、男子の部は船越小の船越オーシャンズ、女子の部は織笠小の織小ラッキーセブンが優勝に輝きました。

